

## 平成16年度鳥取市政懇話会第2回全体会議事概要

1. 日 時：平成17年3月31日（木） 午後3時40分～4時30分
2. 場 所：鳥取市福祉文化会館5階会議室
3. 出席者： 委員 乾委員、下石委員、神部委員、木村肇委員、田中委員、谷口委員、西尾委員、畑山委員、八村委員、福島委員、三田委員、安藤委員、池本委員、川口委員、木村公児委員、下田隆資委員、仲山委員、溝口委員、三谷委員、吉田委員、吉村委員、安養寺委員、宇津原委員、大木戸委員、太田委員、川上委員、児嶋委員、坂本委員、清水委員、橋本委員、浜田委員、山本朝子委員、池原委員、植木委員、岡垣委員、沖委員、下田初男委員、須崎委員、福本委員、森田委員、山本大順委員  
欠席委員 久本委員、四宮委員、水根委員、倮臈委員、亀本委員、細田委員、森山委員  
鳥取市 竹内市長、石谷副市長、林副市長、中川教育長、西澤企画推進部長、山根企画調整監、大西経済観光部長、山下農林水産部長、綾木都市整備部長、松下福祉保健部次長、西尾環境下水道部次長  
事務局 羽場企画調整課長、高橋スタッフ、大田スタッフ、山本スタッフ、山川スタッフ、井上スタッフ、松本スタッフ

羽場企画調整課長 先ほどまで2時間御討議いただいた部会に引き続きまして、これから平成16年度市政懇話会、第2回の全体会を始めさせていただきます。

まず初めに、八村会長にごあいさつをいただき、引き続き議事の進行もお願いいたします。

八村会長 本日は熱心に御討議をいただきありがとうございました。今回の会までにまとめていただいた8次総に関する皆さんの御意見・御提案をいただき、討議をしていきます。

まず、地域づくり部会、木村部会長さんの方から御報告をお願いします。

### 【地域づくり部会】

木村部会長 地域づくり部会ではなかなかテーマをまとめるべく苦慮いたしましたが、委員の皆さんの御意見を整理して、自然環境の保全や資源の循環型社会の形成ということで議論を進めてきました。ほとんどの委員が専門外ではありましたが、部会で出てきた議論を一応整理して次の約9項目について報告いたします。

- (1) 美しい夜空を守るために光害を視点にした施策を検討すること。
- (2) 鳥取市に「自然保護及び環境保全条例」がありますが、これをもう少し今の時代に合った、生きたものにしていくこと。特にこれからの課題として市民の皆さんに十分に浸透させて、この条例の趣旨の周知を図っていく必要があるべきではないかということです。この条例の中に4点条項を盛り込んだらどうかということにさせていただきました。  
持続可能で良好な環境整備維持のための理念。 省資源あるいは省エネルギー、絶滅危惧種の生物の保全、温暖化防止、またリサイクルの促進といった具体的なこと。 犬、猫等のペットによる悪臭、騒音、徘徊等の被害について考える。 不法投棄を防ぐための体制の強化。
- (3) 環境についてモデル地区を設定して、例えば環境家計簿のような、各家庭で取り組めるものを設定して、市民の皆さんの意識を高めること。
- (4) イナバビーチクリーンアップということで、新しく鳥取市の海岸線となった青谷の鳴き

砂、あるいは神話とハマナスの白兔海岸、砂丘など、全国にアピールできる立派な海岸線の環境美化のため、市民ぐるみで一斉清掃をするという推進体制を整備すること。

- (5) ごみの減量のために市民意識を高めていくこと。住民が参画できるごみ処理、例えば生ごみ等の堆肥化の活用などを検討する必要がある。エコマネーのようなものを導入して、ごみの量を減らす取り組みができた地域にエコマネーを発行するという仕組みを検討する。
- (6) 環境に関わる先進的な取り組みをされた地域や団体、グループを表彰し、意識高揚を図っていく。
- (7) 地域の環境美化のために、一番住民に身近な地区の公民館の取り組みを充実させる。
- (8) 現在活動している環境に関するグループ同士の横の連携を強化しネットワークを広げていく。
- (9) 子供のときから環境問題に関心を持ってもらうため、保育園から中学校まで、体験実習を含めて環境教育を実践していく。

以上、地域づくり部会における環境についての課題としてまとめをさせていただきましたので報告いたしました。

八村会長 ありがとうございます。次に、教育福祉部会の三谷部会長さんをお願いします。

#### 【教育福祉部会】

三谷部会長 教育福祉部会は、教育と福祉、人権に分かれて活発な議論を行いました。

- (1) モラルやマナー、ルールを大切に作る鳥取の風土づくり、人づくりを検討すること。  
教育長から、「鳥取市は成績も優秀で、モラルもマナーもあったのに、今それが非常に低下している。学力もマナーも落ちている。皆さんが鳥取駅を見られてどう思われますか」という宿題をいただいて悩みました。そして、大切なのは生まれたときからの教育であり、両親の教育が大切ではないだろうか。しかし、今の時代は親だけでは子供を育てることはできないので、地域が一体になって力を合わせて育てていかなければいけないという話し合いをいたしました。
- (2) 地域コミュニティとしての公民館のあり方を検討すること。  
旧鳥取市内には30余りの公民館があったが、合併によって59カ所になった。その地域によって公民館の活動も温度差があるし、利用する側もいろいろ多種多様であるということで、もっと地域が中心になって活動していけるためには、公民館のあり方は一体どうかということこれから深めていきたいと思います。
- (3) 次世代育成行動計画、障害者福祉計画について。  
次世代育成行動計画はこれからの日本、また鳥取市を背負って立って行く一人ひとりを育てていく計画です。ある委員さんは、これは優先順位の1位だとおっしゃいました。市民全員が力を出し合って、次の世代を立派に背負っていける人材を育成していただきたいなと思います。
- (4) 介護保険制度について。  
障害が起こったときに、介護認定や手続など、時間が経って間に合わなくなる制度でなく、救いを求める人があればすぐ対応できる施策が必要だという意見がありました。また、まずは皆さんが健康で過ごせることが一番大切であり、今以上に市民一人一人が健康に、介護の要らない社会づくりをし、そして人のお役に立てる高齢者として明るく働けたらもっと幸せではなからうかと思っていますので、それに対しての施策をお願いしたいと思っています。
- (5) 人権施策の基本方針について。

人は生まれたときから大切な一人であり、あなたは大切な人間だよ、宝物なのだよという育ちを受け、そして人間になっていくということが基本ではないでしょうか。これは教育の分野が大きな役割を担っていると思います。

また、道徳教育も大切ではないかと思えます。しかし、道徳は感性や価値観によって差あり、70代の方には70代の、40代の方には40代の道徳観がある。どうしたらマナー、モラルや道徳観のある鳥取市民になれるのかというのは大きな問題であり、これからじっくりと取り組んでいかなければならないのではないかと思います。

(6) 男女共同参画行動計画の策定と、男女共同参画センターの事業の推進と充実について。

これもまだ市民にとっては耳新しい言葉であり、理解されていない部分がたくさんあります。市の方が積極的に地域に出て啓発活動を行っていただき、男性も女性も力を合わせてよい鳥取市をつくっていくという気持ちで、建設的に前向きに進んでいかなければなりません。ただ、ともすれば働いている女性だけに目を向けている感を感じているという意見もありますので、家庭で必死に子育てをしている女性の方にも目を向けて、その方々も男女共同参画社会に参加しているのだという気持ちも持っていただきたいと思えます。

以上で教育福祉部会の発表を終わらせていただきます。

八村会長 ありがとうございます。それでは続いて、次は産業振興部会の清水部会長さんをお願いします。

【産業振興部会】

清水部会長 産業振興部会は、商工業と農林漁業と分かれていますので、私は商工業、太田副部会長さんが農林漁業をお話しします。

(1) 商業について

やはり中心市街地の活性化というのが大きなテーマになっております。4月8日に、「弥生にぎわいまちづくり」ということで、パレットとっとりがオープンしますが、そうした集客力を持つ交流館を起点として、若桜街道の空き店舗を活用した郷土芸能館や、街頭スクリーン、物産館、朝市などに取り組んで、集客力を持った地域振興ゾーンをつくり出していこう。また、チャレンジショップの評判がよいので、そういった魅力のある店づくりを市民が行う場合の初期投資、運営、PRに行政が支援していただきたい。

それから、これからは観光が活発化する時代です。やはり駅前をもう少し充実して、バス、車で県外から来られた方が自由に動き回れる回遊式の市街地づくりを考えてはどうかということがありました。

最後に、旧町村地域の商店街の活性化、いわゆる旧町村ではやはり商店街が寂れたりします。いろんなイベントなどの地域振興に特色を出して、それを継続的に取り組むようなことも考えてほしい。生活に密着した商業活動の発展のためには、女性の感性や知恵やアイデア、子供たちのアイデアを出していただいて、それをもとに企業と行政が一体となってにぎやかなまちづくりを行ってはどうかということです。

(2) 工業について

三洋電機が鳥取に来られて既に40年ぐらいになり、大きな技術とノウハウが鳥取市に蓄積されております。それをもっと活用する方法を考え出してはどうか。それから、もう4、5年すれば姫鳥線が開通します。商工会議所と鳥取市が共同で津山、姫路、岡山の隣接圏と交流を進めて仕事の受注等につなげて、地場の産業の活性化図っていく必要もあるのではないかとということが出ました。

それから、これからは農業と工業の連携を図っていく必要があるのではないかとこの

とで、農業には農業のノウハウ、工業には工業のノウハウがあります。やはりそれぞれに精通した産業プロデューサー・コーディネーターがお互いの持ち味を引き出してマッチングを図り、産業を育成する必要もあるということも出ました。

### (3) まとめ

最後に、特に行政お願いしたいのは、

- ・ 必要な施策は長期的な視野で継続する必要があるのではないか。
- ・ 施策を十分達成できる人とお金の配分などの体制づくりと、「選択と集中」で身の丈に合った政策の実現が必要ではないか。
- ・ 県と市町村との共通課題における役割の見直しによって役割分担の明確化を目指したらどうか。
- ・ いろんな分野の専門化が必要になってくるので、プロの職員を育成して、長期的にアドバイザー、コーディネーターの人材づくりをしていく必要があるのではないか。
- ・ 学校の授業などものづくりの面白さや理論などを学ぶ場を作って、起業家を育てていくような、地域の子供の人材づくりを教育委員会に取り組んでほしい。

産業を育成すれば税収入も上がり、雇用にも発展するというので、やはり産業の育成にもっと力を入れていただきたいと思います。

太田副部長 それでは、農業の分野を発表いたします。

農林水産業の分野でございますが、新たな農業、それから農村スタイルの構築というテーマと、それから田舎の再発見と人材活用というこの2つを大きな柱といたしました。

#### (1) 新たな農業、農村スタイルの構築

農村の現場は少子高齢化の進行、くるくる変わる農業政策などでたいへん疲弊しています。

我々の生活の基盤、生産の基盤である集落を活性化するために、行政、JAは、農村集落のマネージャーとしての機能や役割を果たしてほしい。その集落の農地などの状況を分析、診断し、その集落に合った農業のスタイルを提示してほしいということが一つあります。果樹や畜産は個人でも企業化しやすいのですが、水田を使った農業というのは、水系の問題や減反政策があり、「個人」では成り立たない。そういう意味で集落営農を中心にした農業の基盤づくりをしてほしい。

農業農村地帯を食育の場として活用してほしい。食材の生産の場を見ることで、消費者の食に関する意識改革が進めば、消費者が食べるものを選択できる環境が整う。そうした生産の場を食育の場として活用できないか。

経営として農業生産を成り立たせるためには、市町村の財政ではとても事業が展開できない。やはり知恵を出して必要な国の政策を誘導するということが必要である。

この鳥取の土壤に合った農産物の地産地消を推進する。そして、教育、健康面からこの問題を推進していくと。そして、食糧自給率の向上を図ってほしい。

合併前の鳥取市地域と町村地域が持つそれぞれの特色を生かして、地元が潤い活性化する鳥取型のグリーンツーリズムに取り組む必要がある。

#### (2) 田舎の再発見と人材の活用

田舎のいいもの探しを促進しよう、つまり、旧市と新しい新市との交流をもっと図って、それぞれの地域をお互いが知り合うということが必要ではないか。この交流促進によって、資源を開発し、田舎を売り出そうということでございます。

農林水産業地帯に住む人材の活用を図ろう。つまり、ほとんどはサラリーマンの経験

者である兼業農家が定年退職した際に、いろいろな経験を生産の場である農業の分野で活用していただくということでもあります。先生の経験者は地域の子供の教育、食育などで役割を果たしてもらおうということです。

行政、JAは、Iターン、Jターン、Uターンなどで鳥取に来て田舎暮らしがしたいと思っている都会人のコーディネーターとしての役割を果たしてほしい。そして、都会人の志向をつかんで、それを受け入れられる農家、農村、漁村を探す、言うなれば仲人役を果たしてほしい。

この2つの項目でまとめました。

八村会長 ありがとうございます。では最後に、文化観光部会の福本部長にお願いします。

#### 【文化観光部会】

福本部長 当部会は、文化と観光が一つになった文化観光部会という新しい切り口の中で、どうやって文化と観光を一つにするか苦労いたしました。そういう中で、テーマは人に絞り、我々の偉大なる先人、先輩たちの道をたどろうということにしました。先人の偉大な業績や精神を我々が継承し、それを観光につなげていこうということで、文化観光の市として全国にその名を知らしめたいと思っております。この後は各委員から発表します。

山本委員

#### (1) 大国主命

古代ロマンということで「神話へのみち」というテーマで、神話と八まなすの白兔海岸、白兔神社の不増不減の池、河原での大黒様と八上姫様のラブコールなど、大国主命を表に出していく。今度できる道の駅白兔と白兔神社のあたりを拠点して大国主命を売り出してほしいと思います。

沖委員

#### (2) 大伴家持

「万葉へのみち」ということで、拠点は因幡万葉歴史館に置き、奈良、平安時代を中心に、例えば国跡、そこに見える因幡三山、国分寺、国分尼寺の話、あるいは石堂にかかわる話、こういった関連スポットを一気に表に出そうという考え方です。

#### (3) 池田光仲

これは江戸時代でございますが、拠点を鳥取城址に置いて、「32万石へのみち」として鳥取城の光仲以前、光仲以降というような形で表に出したいという形でございます。1つか2つ挙げれば、仁風閣、樗谿公園、樗谿神社、樗谿神社の麒麟獅子、興禅寺、観音院、法泉寺などの神社仏閣が全部関連しています。それとあわせて古い城下町が残っている鹿野、平成の大修理に入っています池田墓地も格好の材料で使えると思います。

植木委員

#### (4) 岡野貞一・田村虎蔵

観光は情報価値がまず第一に必要で、それが物質的な価値を向上させるということで、今回は人の偉業を情報価値として観光と文化を一体的に推進するという考え方です。そういった意味で、歌と景色を素材に観光を推進していくキーワードとしては、岡野貞一さんと田村虎蔵さんを前面に出したい。これは「童謡・唱歌へのみち」ということで、日本のふるさと、原風景の中で歌を聞いていただくような観光につなげていくということです。わらべ館を拠点として活用し、ふるさと音楽祭などの催事と絡めていけると思います。

#### (5) 吉田璋也

吉田璋也は民芸のプロデューサーであり、「民芸へのみち」という形で紹介していきたい。

吉田璋也の活動という人の生き方を通して、鳥取のことについて触れていきたいと。まず、彼は始めた人であるということです。それは鳥取砂丘、仁風閣のような文化財保護を始めた。さらに、新作民芸、鳥取の郷土料理、しゃぶしゃぶであるとか、手仕事を始めた。その中で人が育っていったということで、偉業の啓発によってものづくりの体験であるとか、食文化の熟成が行えると考えます。鳥取民藝美術館を拠点としていくつかの窯などをつなげていくような観光ルートを作りたいと思っています。

須崎委員

(6) 尾崎放哉

放哉は尊敬すべき人間ではないと思っていられる方もありますが、実はさにあらず、現在、非常に彼は受けています。なぜかといいますと、現代人はいろいろなしがらみ、約束事があり、会社に出れば上司にいじめられ、帰れば妻につつかれ、非常につらい人生を送っています。それを放哉は一切を捨てて自由奔放に生きたというところに今の鬱屈した現代人が共感し、解放感を感じるんだと思います。さすらいの道とか、自由への道だとか、何か哲学的なものも出ましたが、この際ずばり、「放哉へのみち」にしようと思いました。尾崎家の菩提寺である興禅寺を拠点にしたいと思います。

(7) 全体のテーマ「ふるさと麒麟回廊」

この6つのみちをつなぐテーマとして、これは全国でオンリーワンであり、因幡を代表するものでもあるし、麒麟が平和と愛を象徴するというで麒麟獅子、それとふるさとを合わせて、「ふるさと麒麟回廊」ということにしました。

八村会長 ありがとうございます。以上で4部会の8次総に向けての意見を提出していただきました。

御質問、あるいは補足したいということはありませんでしょうか。

谷口委員 文化観光部会について、これは歴史時代以前の考古学的な価値のあるもの、例えば青谷の上寺地の弥生人もできれば含めていただきたいと思います。

宇津原委員 文化観光面でも一つ、浜村温泉の貝がら節を取り入れていただきたいと思います。

西尾委員 教育福祉部会で男女共同参画社会実現の取り組みについて御説明いただきましたが、ちょっと希薄な感じがいたしました。鳥取市は、昨年10月に、男女共同参画宣言都市として全国会議も開催し、宣言文を入れた啓発パンフレットもできております。これを有効活用して、行政に頼るだけでなく、行政と協働した力強い取り組みを提言していただきたいと思います。

八村会長 きょうは御意見を伺うということで、特に結論を出す予定にはしてありません。これで打ち切らせていただきます。以上で議事を終わらせていただきます。

羽場企画調整課長 ありがとうございます。報告も終わりましたので、市長から一言ごあいさつを申し上げます。

竹内市長 ただいま4つの部会からの御報告を聞かせていただきました。私は、地域づくり部会の3回の部会、そして、第1回と今日の全体会に出席しました。8次総への提言ということで皆さんから非常に貴重な御意見、提言をいただいたと実感をいたしました。

環境という問題はこれからの鳥取市にとっても重要な課題でありますし、教育福祉部会の提言もそれぞれが重要ですが、次世代育成行動計画は優先順位が一番高いものではないかという御発言もありましたが、やはり鳥取市の中で子供を産み育てる環境、条件を整えるためにももう一歩二歩努力をしていけば、相当よくなると思います。子供たちを大切に育て、この地域が持続的に発展していくようにしていきたいと改めて感じました。

また、産業部会もいろいろな御提言をいただいております。特に商工業、農業いずれも担

い手の問題があり、それをコーディネートするプロデューサー・コーディネーター的な存在の重要性が述べられておりましたが、これから計画の中に大いに生かしたいと感じました。

最後の文化観光部会も、この因幡の地の人に注目するという事で6人の名前が挙がっていました。ここでも再度、人が出てきたわけでありまして、我々が日常知っているけれども、偉大さを改めて認識を深めて発信していくことが重要だということでした。そのほかにも私は因幡の源左さんとか、学ぶべきことが多い方々がたくさんおられるわけですし、これは大きなテーマだと感じました。

今日の御意見はぜひ8次総に入れ込みたいと思いますし、こういった斬新なアイデアを市政懇話会の場で短い期間のうちに出していただけたことを心から感謝を申し上げたいと思います。

明日から新しい年度が始まります。合併後の鳥取市にとって基礎固めの年ということをお私言っております。基礎固めの年にとって最も重要なものの一つがこの8次総合計画をまとめることであり、もう一つは行財政改革だと言っております。今年度末にまとめた行財政改革大綱に基づいて、行政の質の向上、効率的な行政の執行、財政の健全化を進めていきます。

今日伺った中でも十分いただいておりますが、改めて17年度の会合の中でもいろいろなお知恵を出していただきますようお願いしたいと思います。その知恵をもとに20万市民が行動を起こすと、これが鳥取を変える大きな原動力になっていくと思います。ふるさと鳥取が本当にすばらしい地域になるように、この市政懇話会から大きな渦を、波を起こしていきたいと念願をいたしております。

皆様方にはお忙しい中、熱意を持って取り組んでいただき、重ねて御礼を申し上げ、私のごあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございます。

羽場企画調整課長 それでは、以上をもちまして平成16年度第2回目の全体会を終了させていただきます。

なお、17年度第1回目の部会は5月ごろ予定しておりますが、各部会の担当者の方から御連絡をさせていただきます。また、きょうの議事録はでき上がり次第お送りしたいと思っております。

本日は長時間にわたりまして、どうもありがとうございました。